

ナバナ「はるの輝」(なばな農林1号)の育成経過と主要特性

石田 正彦・奥山 善直*・平岩 進**

(東北農業試験場・*農業研究センター・**富山県農業技術センター)

Breeding Process and Characteristics of a New Vegetable Rape Cultivar "Harunokagayaki"

Masahiko ISHIDA, Yoshinao OKUYAMA* and Susumu HIRAIWA**

(Tohoku National Agricultural Experiment Station・*National Agriculture Research Center・**Toyama Agricultural Research Center)

1 はじめに

ナタネ (*Brassica napus*) は、その花蕾と柔らかい花茎及び葉が野菜として利用できることからナバナの名称で栽培され、地域特産野菜として作付面積が増加している。しかし、現在市場に出回っている品種は早生種であり、耐寒雪性が劣る。このため、東北農業試験場では積雪寒冷地でも安定して栽培できる食味や外観の優れた良質のナバナ品種の育成を目標に育種を進めてきた。

1994年8月にナバナ「農林1号」として農林登録された「はるの輝」は、越冬性、外観品質に優れた良食味の新品種であり、岩手県三陸沿岸地域の特産品目として期待され

ている。そこで、本品種の育成経過と主要特性について報告する。

2 はるの輝の育成経過

「はるの輝」は1983年に東北農業試験場盛岡試験地の油料用ナタネ (*Brassica napus* L.) である「トワダナタネ」の採種圃中に見出された、表皮のロウ質が欠如した自然突然変異個体に由来する(図1)。この変異体は、外観が濃緑で光沢があり、ゆでた時の色彩が鮮緑色で苦みや青臭みがなく、甘味を有していた。そこで、ロウ質の欠如した変異体から越冬性及び外観の優れた良食味のナバナ品種を育成しようとした。

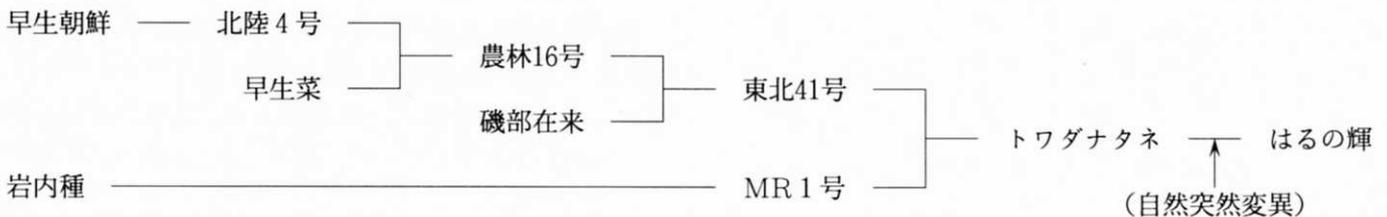


図1 はるの輝の系譜

1984年(M₂)より系統育種法に準じて花茎の奇形個体を淘汰し、選抜・固定を図ると共に特性を調査してきた。1990年(M₃)には盛系234号の地方系統名を付け、奨励品種決定調査に供試し、栽培特性や地域適応性などの検討を行った。その結果、1994年に農林水産省育成農作物新品種「はるの輝」(なばな農林1号)として命名登録され、岩手県で奨励品種に採用された。

3 育成地における特性概要

ナバナとして利用されているナタネ「農林16号」に比べ春播き性程度はIとごく低く、花芽分化には長期の低温遭遇期間を要する。育成地における抽苔期は「農林16号」に比べ10日遅く、収穫始めは6日遅いが、収穫期間は11日長

い晩生種である。茎葉蕾の収量は50%多収であり、主茎と側枝を合わせた花茎の平均1本重は3.6g重い。「農林16号」と異なり、表皮のロウ質は見られない。耐寒雪性に優れるが、他のナタネ品種同様根こぶ病に対する抵抗性は持っていない(表1)。

4 系統適応性検定場所における特性概要

ナバナ系統適応性検定試験成績を表2に示した。いずれの試験地においても「はるの輝」の抽苔期は露地栽培、ハウス栽培ともに「農林16号」よりも遅かった。このため収穫始期は遅いが、「農林16号」や「三陸つぼみ菜」よりも1日~36日後まで商品性のあるものが収穫でき、「農林16号」や「三陸つぼみ菜」などの従来の早生品種と組み合わ

表1 育成地における「はるの輝」の主要特性

品種名	春播性の程度	抽苔期(月.日)	収穫期間(月.日)	収量(kg/a)	標準比(%)	平均1本重(g)	表皮蠟質	寒雪害抵抗性	根こぶ病抵抗性
はるの輝	極低(I)	4.17	5.3~5.29	57.8	150	19.1	無	やや強	低
農林16号	やや高(III)	4.7	4.27~5.12	38.6	100	15.5	有	中	低

注. 平成3~4年度の平均値。

表2 系統適応性検定試験における「はるの輝」の生育・収量及び食味調査成績

栽培法	検定場所名	品 種 名	抽苔期 (月. 日)	収穫時期 (月. 日)	収量 (kg/a)	標準比 (%)	平均1本重 (g)	食 味 評 価			
								外観色	甘味	苦み	総合
露 地	青森畑園試	はるの輝	4.23	5. 2~6.12	274	165	22.3	濃緑	有	無	良
		農林16号	4.19	4.18~5.31	166	100	16.2	淡緑	や有	無	普通
		三陸つぼみ菜	4.14	4.28~6. 2	177	107	15.7	淡緑	や有	や有	普通
	宮城園試	はるの輝	3.14	4. 7~5.29	165	84	38.8	濃緑	や有	無	や良
		農林16号	2.19	3. 9~5.18	196	100	32.2	緑	や有	や有	並
		三陸つぼみ菜	2. 1	2.21~5. 9	201	103	27.9	緑	や有	無	並
	岐阜総農試	はるの輝	3.19	3. 4~4.28	141	140	18.4	濃緑	や有	無	極良
		農林16号	3. 3	1.12~3.23	101	100	18.1	緑	無	や有	並
	ハウス	青森畑園試	はるの輝	3. 6	2.11~6.30	523	185	12.7	-	-	-
農林16号			2.20	2. 2~6. 7	283	100	12.0	-	-	-	-
三陸つぼみ菜			2. 2	1.30~6. 2	376	133	13.1	-	-	-	-
岩手園試 南部分場		はるの輝	-	3.14~5.17	172	70	9.5	濃緑	有	無	優
		三陸つぼみ菜	-	1.26~4.19	245	100	5.3	緑	や有	無	劣る
秋田農試		はるの輝	2.22	3.25~4.30	186	120	21.4	濃緑	有	無	良
		農林16号	1.30	3.11~4.29	154	100	16.3	濃緑	や有	無	並
		三陸つぼみ菜	1.16	2.15~4.16	204	133	18.4	濃緑	有	無	や良
新潟農試		はるの輝	3.23	3.31~4.29	77	109	26.8	や濃緑	中	無	や良
		農林16号	2.23	2.23~4.11	71	100	21.2	濃緑	無	極微	や良

注. 食味評価はおひたしにして判定。試験年次は岩手園試は平成1~3年度, 他は3~4年度の平均。

せて栽培することで長期出荷が可能となり、作期の拡大に有効と考えられる。収量は「農林16号」と比べて比較的多収であり、青森県畑作園芸試験場のハウス栽培では「農林16号」より85%多収であった。また主茎と側枝を合わせた花茎の平均1本重はすべての試験地で「農林16号」より重かった。「はるの輝」は晩生種であるが、外観・食味に優れていることから各検定場所で有望と評価された。

以上の結果から、「はるの輝」の適応地帯は長期積雪地帯を除く寒冷地や一部の温暖地と考えられる。耐寒雪性に優れるので冬作の露地栽培や無加温ハウス栽培に適する。

5 ま と め

「はるの輝」の主な特性は次のとおりである。

- (1) 茎葉蓄利型型のナバナ品種である。
- (2) 収量は、ナタネ「農林16号」と比較して約50%多収である。
- (3) 花茎及び葉の表皮にはロウ質がなく、外観は光沢があり、鮮やかな緑色をしている。
- (4) 花茎は、他のナバナ品種と比較して食味が良く、甘みがある。また花茎の1本重は重く、太い。
- (5) 春播性はIであり、「ナタネ農林16号」に比べ収穫始めが6日遅い晩生種である。耐寒雪性はやや強である。
- (6) 根こぶ病に対する抵抗性はない。
- (7) 適応地域は長期積雪地帯を除く寒冷地や温暖地である。